

コアプレスタ 2000 における大容量リアスオート P-FDP、D ダイマーネオ試薬検討

◎浅井 美里¹⁾、林 晃司¹⁾、林 佑紀¹⁾、水谷 保彦¹⁾、加藤 公明¹⁾
岐阜赤十字病院¹⁾

【はじめに】

線溶現象によって形成される FDP (フィブリン/フィブリノゲン分解産物) は、播種性血管内凝固症候群 (DIC) や心筋梗塞、D ダイマーは深部静脈血栓症 (DVT) などの血栓症の指標に用いられる。しかし、FDP、D ダイマー測定試薬は標準化されておらず、試薬メーカーによる差が大きい項目である。今回、シスメックス社より大容量の FDP、D ダイマー検査試薬が開発され、試薬の基礎的検討を行ったので報告する。

【対象と方法】

対象は、当検査部に依頼があった患者検体 72 件 (3.2%クエン酸加血漿) とし、コアプレスタ 2000 (積水メディカル社) にて測定した。検討試薬は、シスメックス社のリアスオート P-FDP (以下 LiaFDP)、リアスオート D ダイマーネオ (以下 LiaDD)、オート LIA FM とし、対象試薬として、積水メディカル社のナノピア P-FDP (以下 N-FDP)、ナノピア D ダイマー (以下 N-DD) を用いた。

【検討内容】

①同時再現性 (低・高濃度検体を各 10 回測定)
②直線性、③各試薬の相関、④測定値乖離検体の解析を行った。

【結果】

①低濃度における CV は、LiaFDP : 2.6%、LiaDD : 5.9%、高濃度においては、LiaFDP : 1.6%、LiaDD : 1.3% と良好であった。
②LiaFDP、LiaDD 共に試薬性能の直線性を満たしている事を確認した。③FDP は $y=1.22x-9.57$ ($r=0.96$)、D ダイマーは $y=1.22x+3.87$ ($r=0.87$) であり、特に FDP において良好な相関が得られた。④測定値が乖離した検体に対し、ウエスタンブロット解析を行った。

【考察】

FDP について LiaFDP が大きく高値に乖離した検体があった。ウエスタンブロット法を用いて FDP 分画を確認したところ、低分子分画を示す X/Y/D/E の分画と思われる所にバンドがみられた。そのため、LiaFDP は広範囲の FDP 分画と反応する事が推測できた。また D ダイマーについて、敗血症の診断時や診断前の検体では、LiaDD が N-DD より高値に乖離した検体が散見された。これらの検体で FDP/DD 比を確認すると試薬間差が大きかった。そのため FDP/DD 比で病態を議論する場合には注意が必要であると思われた。

【まとめ】

試薬の基本的性能及び相関は、良好な結果が得られた。また試薬の特性を把握するために、症例数を増やす予定である。

連絡先 : 058-231-2266 (2201)